

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2857 号

Main causes of death in advanced biliary tract cancer

進行胆道癌の直接死因

瀬戸 花菜 (せと かな)

博士 (医学)

論文内容の要旨

胆道癌の直接死因は、原病の悪化に伴う肝不全、胆管炎、悪液質などが原因と推測されているが、詳細な報告はないことから、本研究では胆道癌の直接死因と疾患の背景、生存期間について検討した。対象は 2010 年 8 月から 2020 年 3 月までに当科を受診し、切除不能胆道癌と診断された患者 143 人で、そのうち、追跡不能な 11 人、観察期間に生存していた 6 人、死亡前 30 日以内に採血結果がなく死因の推定が不可能と考えた 18 人を除外した計 108 人であった。対象患者の診療録と検査データから直接死因を推定し、Kaplan-Meier 法を用いて死因毎に生存期間を解析した。解析時には対象患者すべてのほか、治療介入の有無で死因が異なる可能性を考え化学療法を施行した化学療法群と施行しなかった Best supportive care (BSC) 群とに分類し解析した。腫瘍の増勢が起因となった死因、例えば肝不全、胆管炎、悪液質、転移による死因などを腫瘍進行による死因とし、合併症に伴う死因、例えば腎不全、心不全、肺炎などを合併症による死因として大別した。胆道癌の主な死因と考えられる肝不全、胆管炎、悪液質を直接死因とする定義を、既報を参考にして規定した。推定された主な直接死因は胆管炎が 30.6%、悪液質が 20.4%、肝不全が 9.3%、その他の(胆管炎・悪液質・肝不全を除いた)腫瘍進行に伴う死因が 16.7%、合併症が 23.2%であった。生存期間中央値は化学療法群が 334 日、BSC 群が 75 日であった。化学療法群の死因毎の生存期間中央値は悪液質 453.0 日、胆管炎 499.0 日、肝不全 567.0 日、その他の腫瘍進行 205.0 日、合併症 327.5 日で、その他の腫瘍進行の生存期間が有意に短い結果となった。BSC 群の生存期間中央値は悪液質 219 日、胆管炎 69 日、肝不全 34 日、その他の腫瘍進行 93 日、合併症 56 日で、肝不全の生存期間が有意に短い結果となった。化学療法群では、死因が“その他の腫瘍進行”であった患者の生存期間が有意に短かった。進行胆道癌患者の予後は、肝不全・胆管炎・悪液質以外の腫瘍の進行に伴って生じる病態が主な死因である場合に短縮すると考えた。さらに、死因が肝不全であった患者の生存期間は BSC 群で最も短かったが、化学療法群では比較的長かった。この結果は、肝不全が胆道癌末期における最も進行した病態であることを示唆しており、進行した胆道癌患者の治療目標が、肝不全の発症まで継続できることではないか、と考察した。